

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第6478388号
(P6478388)

(45) 発行日 平成31年3月6日(2019.3.6)

(24) 登録日 平成31年2月15日(2019.2.15)

(51) Int.Cl.

A 4 7 C 3/04 (2006.01)

F 1

A 4 7 C 3/04

請求項の数 1 (全 9 頁)

(21) 出願番号 特願2014-220710 (P2014-220710)
 (22) 出願日 平成26年10月29日(2014.10.29)
 (65) 公開番号 特開2016-86840 (P2016-86840A)
 (43) 公開日 平成28年5月23日(2016.5.23)
 審査請求日 平成29年10月5日(2017.10.5)

(73) 特許権者 000000561
 株式会社オカムラ
 神奈川県横浜市西区北幸二丁目7番18号
 (74) 代理人 100149548
 弁理士 松沼 泰史
 (74) 代理人 100094400
 弁理士 鈴木 三義
 (74) 代理人 100064908
 弁理士 志賀 正武
 (72) 発明者 荒谷 彩子
 神奈川県横浜市西区北幸二丁目7番18号
 株式会社岡村製作所内
 審査官 小原 正信

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 椅子

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

脚体に支持される座を備え、

上方側の椅子の前記座の下面を、同形状の下方側の椅子の前記座の上面に当接させて重ね合わせ可能とされる椅子において、

前記座は、座本体と、当該座本体の裏面側を被う裏面カバーと、前記座本体の上面側に取り付けられ、前記座本体よりも軟質なクッション材と、を備え、

前記裏面カバーは、前記下方側の椅子の前記座の上面側に重ね合わせ可能で、前記座本体の下面との間に空間部が設けられる底部壁を有し、

前記底部壁には、前記座本体の上面側の端縁と略同形状の窪み部が上方側に窪んで設けられ、

前記窪み部は、前記座本体の前記端縁の側の最深部から中央側領域に向かって下方傾斜して形成されるとともに、同形状の下方側の椅子の前記座本体の上面側の端縁に対して、前記クッション材を挟んで上方から係合可能とされていることを特徴とする椅子。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

この発明は、同形状の椅子を上下に積み重ねて収納することが可能な椅子に関するものである。

【背景技術】

10

20

【 0 0 0 2 】

不使用時に、同形状の椅子を上下に積み重ねて収納できる椅子が知られている(例えば、特許文献 1 , 2 参照)。

【 0 0 0 3 】

特許文献 1 に記載の椅子は、脚体に支持される座が、着座者の荷重を受ける座本体と、座本体の裏面を被う裏面カバーと、を備えている。この椅子の場合、裏面カバーの下面が平坦に形成されており、不使用時には、下方側の椅子の座本体の上面側に、同形状の上方側の椅子の裏面カバーの平坦な下面を当接させ、その状態で同形状の椅子を上下に積み重ねることができる。このため、この椅子においては、座本体の裏面側に凹凸部がある場合にも、座本体の上面が裏面カバーの平坦な下面に当接することによって、座本体の上面に傷等の劣化が生じるのを防止することができる。

10

【 0 0 0 4 】

また、特許文献 2 に記載の椅子は、脚体に支持される座が、着座者の荷重を受ける座本体と、座本体の裏面を被う裏面カバーと、を備え、脚体には、積み重ね時に、裏面カバーの受部に当接するスタッキングバーが取り付けられている。スタッキングバーは、脚体から座の下方に突出しており、下方側の椅子の上方に同形状の上方側の椅子を重ねるときに、下方側の椅子の裏面カバーの側部に延設された受部に上方から当接し得るようになっている。また、裏面カバーの側部に延設された受部の上面には、スタッキングバーの位置ズレを防止するためのストッパーが突設されている。

20

【 先行技術文献 】

【 特許文献 】

【 0 0 0 5 】

【 特許文献 1 】 実公昭 6 3 - 0 0 1 8 9 7 号公報

【 特許文献 2 】 特許第 4 1 4 4 0 0 7 号公報

【 発明の概要 】

【 発明が解決しようとする課題 】

【 0 0 0 6 】

特許文献 1 に記載の椅子は、座本体の裏面に下面が平坦な裏面カバーが取り付けられているため、下方側の椅子の座本体の上面側に同形状の上方側の椅子の座を重ねた場合に、座本体の上面に傷等の劣化が生じるのを防止することができるものの、裏面カバーの下面が平坦であることから、積み重ねた上方側の椅子の座が下方側の椅子の座に対して面方向に滑り易い。このため、上方側の椅子に外力が加わったときや、上方側の椅子のバランスが僅かに崩れたとき等に、上方側の椅子が下方側の椅子の座上を滑って落下することが懸念される。

30

【 0 0 0 7 】

一方、特許文献 2 に記載の椅子は、上方側の椅子のスタッキングバーが下方側の椅子の受部にストッパー部と係合した状態で当接することにより、積み重ね時に上方側の椅子が滑って落下するのを防止することができる。しかし、この椅子の場合、スタッキングバーを脚体に設け、さらにストッパーを有する受部を裏面カバーの側部に設けなければならないため、椅子の構造が複雑になり、製造コストが高騰することが懸念される。

40

【 0 0 0 8 】

そこでこの発明は、構造を複雑にすることなく、下方側の椅子の座の上部に上方側の椅子の座を安定して積み重ねることができる椅子を提供しようとするものである。

【 課題を解決するための手段 】

【 0 0 0 9 】

この発明に係る椅子では、上記課題を解決するため、脚体に支持される座を備え、上方側の椅子の前記座の下面を、同形状の下方側の椅子の前記座の上面に当接させて重ね合わせ可能とされる椅子において、前記座は、座本体と、当該座本体の裏面側を被う裏面カバーと、前記座本体の上面側に取り付けられ、前記座本体よりも軟質なクッション材と、を備え、前記裏面カバーは、前記下方側の椅子の前記座の上面側に重ね合わせ可能で、前記

50

座本体の下面との間に空間部が設けられる底部壁を有し、前記底部壁には、前記座本体の上面側の端縁と略同形状の窪み部が上方側に窪んで設けられ、前記窪み部は、前記座の前記端縁の側の最深部から中央側領域に向かって下方傾斜して形成されるとともに、同形状の下方側の椅子の前記座本体の上面側の端縁に対して、前記クッション材を挟んで上方から係合可能とされている。

【 0 0 1 0 】

これにより、不使用時に、下方側の椅子の座の上面に上方側の椅子の座の下面を重ね合わせる場合には、下方側の椅子の座の上面側の端縁に、上方側の椅子の座の下面の窪み部を係合させる。このとき、上方側の椅子の座の下面の窪み部が、座の端縁側の最深部から中央側領域に向かって下方傾斜していることにより、上方側の椅子が、窪み部を下方側の椅子の上面側の端縁と係合させつつ、その係合部位を支点として中央側領域が下方となるように傾斜しようとする。この結果、上方側の椅子の重心に作用する荷重により、上方側の椅子の窪み部と下方側の椅子の上面側の端縁との係合状態が維持されるとともに、上方側の椅子が下方側の椅子から滑り落ちにくくなる。

10

【 0 0 1 1 】

この場合、座が、座本体と、当該座本体の裏面側を被う裏面カバーと、を備えているため、同形状の下方側の椅子の座の上面に上方側の椅子の座を重ね合わせたときに、下方側の椅子の座の上面が、上方側の椅子の座本体の下面の凹凸部と直接接触することがなくなる。したがって、複数の椅子を積み重ねたときに、座本体の上面側に傷付き等の劣化が生じるのを未然に防止することができる。

20

【 0 0 1 2 】

また、この場合、同形状の下方側の椅子の座の上面に上方側の椅子の座が重ねられると、下方側の椅子の座の上面側に上方側の椅子の裏面カバーの底部壁が当接し、このとき椅子の重みによって上方側の椅子の裏面カバーの底部壁が撓み、その裏面カバーの窪み部が下方側の椅子の座の上面側の端縁に密に係合するようになる。したがって、この構造を採用することにより、下方側の椅子の座の上部に上方側の椅子の座をより安定して積み重ねることができる。

【 0 0 1 3 】

さらに、この場合、同形状の下方側の椅子の座の上面に上方側の椅子の座が重ねられると、下方側の椅子の座の上面側のクッション材が上方側の椅子の重みによって大きく撓み変形し、上方側の椅子の窪み部が下方側の椅子の座の上面側の端縁により密に係合するようになる。

30

【 発明の効果 】

【 0 0 1 4 】

この発明によれば、座の上面側の端縁と略同形状の窪み部が座の下面に上方側に窪んで設けられ、窪み部が、座の端縁側の最深部から中央側領域に向かって下方傾斜して形成されていることから、同形状の下方側の椅子の座の上面側の端縁に上方側の椅子の下面の窪み部を係合させると、上方側の椅子の重心に作用する荷重により、上方側の椅子の窪み部と下方側の椅子の座の上面側の端縁との係合を安定的に維持することができる。したがって、この発明によれば、構造を複雑にすることなく、下方側の椅子の座の上部に上方側の椅子の座を安定して積み重ねることができる。

40

【 図面の簡単な説明 】

【 0 0 1 5 】

【 図 1 】 この発明の一実施形態に係る椅子の斜視図である。

【 図 2 】 この発明の一実施形態に係る椅子の斜視図である。

【 図 3 】 この発明の一実施形態に係る椅子の一部の部材を取り去った斜視図である。

【 図 4 】 この発明の一実施形態に係る椅子の積み重ねた状態での側面図である。

【 図 5 】 この発明の他の実施形態に係る椅子の積み重ねた状態での側面図である。

【 発明を実施するための形態 】

【 0 0 1 6 】

50

以下、この発明の実施形態を図面に基づいて説明する。

図 1 は、この実施形態に係る椅子 1 を後部右上方側から見た斜視図であり、図 2 は、同椅子 1 を後部右下方側から見た斜視図である。なお、図面において、矢印 F R は、椅子 1 の前方を指し、矢印 U P は、椅子 1 の上方を、矢印 L H は、椅子 1 の左側方をそれぞれ指すものとする。

【 0 0 1 7 】

この実施形態に係る椅子 1 は、フロア上に載置される脚体 1 0 と、脚体 1 0 の上部に支持されて着座者の臀部を支持する座 1 1 と、座 1 1 の後部から上方に立設されて着座者の背部を支持する背凭れ 1 2 と、を備えている。

座 1 1 は、略矩形状の平面視形状に形成され、背凭れ 1 2 は、座 1 1 と略同幅の略矩形状の正面視形状に形成されている。座 1 1 は、合板や樹脂板等からなる座本体 1 1 A と、座本体 1 1 A の裏面(下面)を被う樹脂製の裏面カバー 1 1 B と、を備えている。この実施形態の場合、背凭れ 1 2 は、座本体 1 1 A と一体に形成され、座本体 1 1 A の後部から上方側に向かって延出している。背凭れ 1 2 は、下縁部側が後方側に湾曲した後に着座者の腰部の当たる位置を前方側の最膨出部として、それより上部側が後方に若干傾斜しつつ上方側に延出している。背凭れ 1 2 の上縁部の幅方向の中央領域には、横長の略矩形状の把手用開口 1 3 が形成されている。

【 0 0 1 8 】

図 3 は、裏面カバー 1 1 B を取り外した椅子 1 を後部右下方側から見た斜視図である。

図 3 に示すように、椅子 1 の脚体 1 0 は、座 1 1 の四隅から下方に向かって延出する 4 本の支柱部 1 0 a ... を有している。各支柱部 1 0 a は、座 1 1 の対角位置に配置されるもの同士が連結梁部 1 0 b によって連結され、連結梁部 1 0 b , 1 0 b 同士は座 1 1 の略中心位置において相互に連結されている。連結梁部 1 0 b の適所には、板状の締結片 1 4 が接合され、その締結片 1 4 が座 1 1 の座本体 1 1 A の裏面にボルト締結されるようになっている。

なお、この実施形態に係る椅子 1 においては、4 本の支柱部 1 0 a ... のうちの座 1 1 の後方側に配置される 2 本の支柱部 1 0 a - r , 1 0 a - r は、座 1 1 の幅方向の外側端面よりも外側位置から下方に向かって延出している。

【 0 0 1 9 】

図 4 は、同形状の二つの椅子 1 , 1 を上下に積み重ねて左側方から見た図である。

図 1 , 図 2 , 図 4 に示すように、座本体 1 1 A は、前後方向の中央領域がほぼ平坦に形成されるとともに、前縁部が前部下方に向かって滑らかに湾曲する形状とされている。座本体 1 1 A は、全域がほぼ一定肉厚に形成されているため、その上面側の前縁部は前部下方に向かって湾曲する湾曲面とされている。以下、この部分を前縁湾曲面 1 1 A - a と呼ぶものとする。

【 0 0 2 0 】

ここで、この実施形態に係る椅子 1 は、図 4 に示すように、不使用時に、同形状の複数の椅子 1 を上下に重ねて収納できるようになっている。この収納時には、上方側の椅子 1 は、下方側の椅子 1 と前後の向きを揃え、上方側の椅子 1 の後部 2 本の支柱部 1 0 a - r , 1 0 a - r が、下方側の椅子 1 の座 1 1 の左右の外側を跨ぐようにして、上方側の椅子 1 の座 1 1 を下方側の椅子 1 の座 1 1 の上面に載置する。このとき、上方側の椅子 1 は、座 1 1 の裏面カバー 1 1 B の下面が、下方側の椅子 1 の座本体 1 1 A の上面に当接するとともに、背凭れ 1 2 が、下方側の椅子 1 の背凭れ 1 2 の前方側に略平行になって配置される。

【 0 0 2 1 】

一方、裏面カバー 1 1 B は、下方側の椅子 1 の座 1 1 の上面に重ね合わせられる略正方形の底部壁 1 1 B - a と、底部壁 1 1 B - a の周域部から外側斜め上方に向かって起立する起立壁 1 1 B - b と、を有している。底部壁 1 1 B - a の前縁部には、座本体 1 1 A の前縁湾曲面 1 1 A - a と略同形状の窪み部 1 5 が上方側に窪んで設けられている。また、底部壁 1 1 B - a の中央領域には、上方側に向かって隆起し、裏面カバー 1 1 B を座本

10

20

30

40

50

体 1 1 A の裏面にボルト締結するためのボス部 1 6 が形成されている。裏面カバー 1 1 B は、座本体 1 1 A の裏面に締結固定した状態では、ボス部 1 6 と起立壁 1 1 B - b の上端部のみが座本体 1 1 A の裏面に当接し、底部壁 1 1 B - a と座本体 1 1 A の下面との間には、空間部 1 8 (図 4 参照)が設けられている。

【 0 0 2 2 】

裏面カバー 1 1 B の窪み部 1 5 は、前後方向の断面形状が緩やかな湾曲形状に形成され、その断面形状が底部壁 1 1 B - a の椅子幅方向に亘って連続している。また、窪み部 1 5 は、前端側の最深部から底部壁 1 1 B - a の前後方向の中央側領域に向かって下方傾斜して形成されている。

【 0 0 2 3 】

裏面カバー 1 1 B の起立壁 1 1 B - b には、略 U 字状の 4 つの切り欠き溝 1 7 ... が形成されている。この各切り欠き溝 1 7 には、脚体 1 0 の連結梁部 1 0 b の端部が挿通されている。

【 0 0 2 4 】

この実施形態に係る椅子 1 を、不使用時に、実際に上下方向に複数積み重ねる場合には、図 4 に示すように、下方側の椅子 1 の座 1 1 の上面に上方側の椅子 1 の座 1 1 の下面を載置する。このとき、上方側の椅子 1 は、座 1 1 の裏面カバー 1 1 B の下面の窪み部 1 5 を下方側の椅子 1 の座本体 1 1 A の前縁湾曲面 1 1 A - a と係合させる。

上方側の椅子 1 の座 1 1 の窪み部 1 5 は、座 1 1 の端縁側の最深部から中央側領域に向かって下方傾斜しているため、このとき、上方側の椅子 1 は、窪み部 1 5 を下方側の椅子 1 の前縁湾曲面 1 1 A - a と係合させつつ、その係合部位を支点として中央側領域が下方となるように傾斜しようとする。この結果、上方側の椅子 1 の重心に作用する荷重により、上方側の椅子 1 の窪み部 1 5 と下方側の椅子 1 の前縁湾曲面 1 1 A - a の係合状態が維持されるとともに、上方側の椅子 1 が前方側に滑り落ちにくくなる。

【 0 0 2 5 】

以上のように、この実施形態に係る椅子 1 においては、座 1 1 の上面側の前端縁(前縁湾曲面 1 1 A - a)と略同形状の窪み部 1 5 が座 1 1 の下面に上方側に窪んで設けられ、窪み部 1 5 が、座 1 1 の前端縁側の最深部から中央側領域に向かって下方傾斜して形成されている。このため、下方側の椅子 1 の座 1 1 の上方側の端縁に上方側の椅子 1 の窪み部 1 5 を係合させたときに、上方側の椅子 1 の重心に作用する荷重により、上方側の椅子 1 の窪み部 1 5 と下方側の椅子 1 の座 1 1 の上面側の端縁との係合を安定的に維持することができる。

したがって、この実施形態に係る椅子 1 を採用した場合には、構造を複雑にすることなく、下方側の椅子 1 の座 1 1 の上部に上方側の椅子 1 の座 1 1 を安定して積み重ねることができる。

【 0 0 2 6 】

また、この実施形態に係る椅子 1 は、窪み部 1 5 が、座本体 1 1 A の裏面を被う裏面カバー 1 1 B に形成されるため、上方側の椅子 1 を下方側の椅子 1 の座 1 1 に重ねたときに、下方側の椅子 1 の上面が上方側の椅子 1 の座本体 1 1 A の下面の凹凸部に直接接触せずに、裏面カバー 1 1 B に当接することになる。このため、この構造を採用することにより、座 1 1 の上面に傷付き等の劣化が生じるのを未然に防止することができる。

【 0 0 2 7 】

また、この実施形態に係る椅子 1 においては、窪み部 1 5 が、裏面カバー 1 1 B の底部壁 1 1 B - a に形成され、底部壁 1 1 B - a と座本体 1 1 A の下面との間に空間部 1 8 が設けられている。このため、下方側の椅子 1 の座 1 1 の上に上方側の椅子 1 の裏面カバー 1 1 B の底部壁 1 1 B - a が当接すると、上方側の椅子 1 の重みによって上方側の椅子 1 の裏面カバー 1 1 B の底部壁 1 1 B - a が上方側に容易に撓み、その底部壁 1 1 B - a の窪み部 1 5 が下方側の椅子 1 の座 1 1 の前縁湾曲面 1 1 A - a に密に係合するようになる。したがって、この構造を採用した場合には、下方側の椅子 1 の座 1 1 の上部に上方側の椅子 1 の座 1 1 をより安定して積み重ねることができる。

【 0 0 2 8 】

図 5 は、他の実施形態を示す図であり、同形状の二つの椅子 1 0 1 , 1 0 1 を上下に積み重ねて左側方から見た図である。

この他の実施形態に係る椅子 1 0 1 は、座 1 1 の座本体 1 1 A の上面に、座本体 1 1 A よりも軟質なクッション材 1 1 C が取り付けられている点のみが上記の実施形態と異なり、他の部分の構成は上記の実施形態と同様となっている。このため、この他の実施形態については、上記の実施形態と同一部分に同一符号を付して重複する説明を省略するものとする。

【 0 0 2 9 】

この他の実施形態に係る椅子 1 0 1 は、不使用時に、下方側の椅子 1 0 1 の座 1 1 の上部に上方側の椅子 1 0 1 の座 1 1 を重ねると、下面側の椅子 1 0 1 の座 1 1 の上面側のクッション材 1 1 C が上方側の椅子 1 0 1 の重みによって大きく撓み変形する。このため、上方側の椅子 1 0 1 の窪み部 1 5 が下方側の椅子 1 0 1 の座 1 1 の上面側の縁部(前縁湾曲面 1 1 A - a を被うクッション材 1 1 C 部分)により密に係合するようになる。

したがって、この他の実施形態に係る椅子 1 0 1 を採用することにより、構造を複雑にすることなく、下方側の椅子 1 0 1 の座 1 1 の上部に上方側の椅子 1 0 1 の座 1 1 をより安定して積み重ねることができる。

【 0 0 3 0 】

なお、この発明は上記の実施形態に限定されるものではなく、その要旨を逸脱しない範囲で種々の設計変更が可能である。

【 符号の説明 】

【 0 0 3 1 】

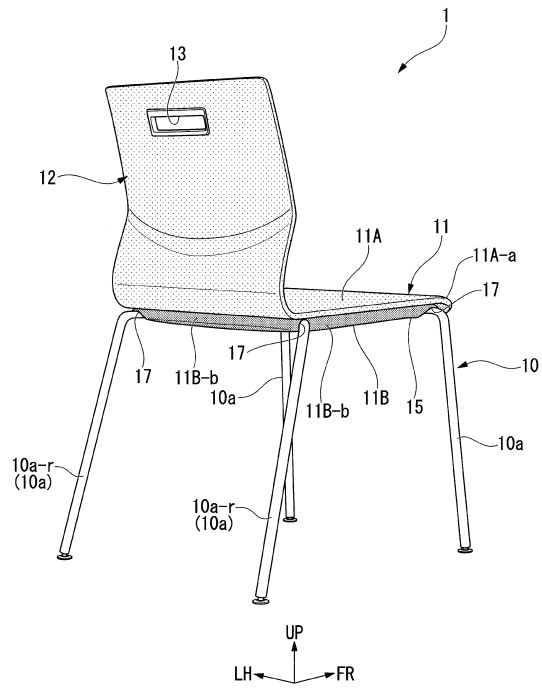
- 1 椅子
- 1 0 脚体
- 1 1 座
- 1 1 A 座本体
- 1 1 B 裏面カバー
- 1 1 C クッション材
- 1 1 B - a 底部壁
- 1 5 窪み部
- 1 8 空間部

10

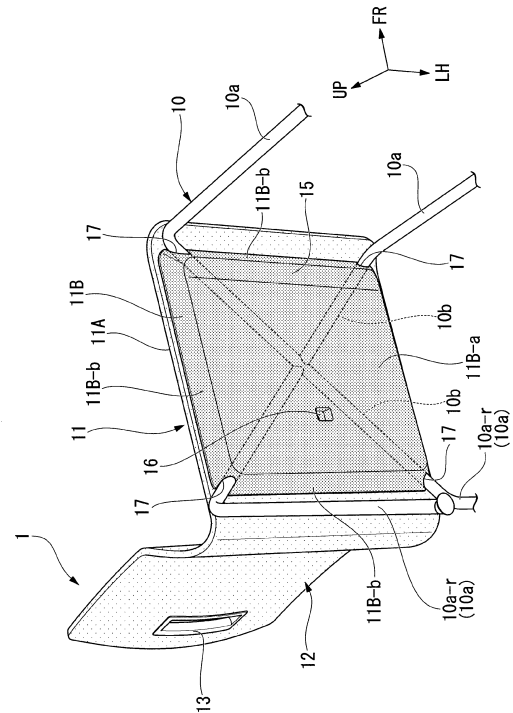
20

30

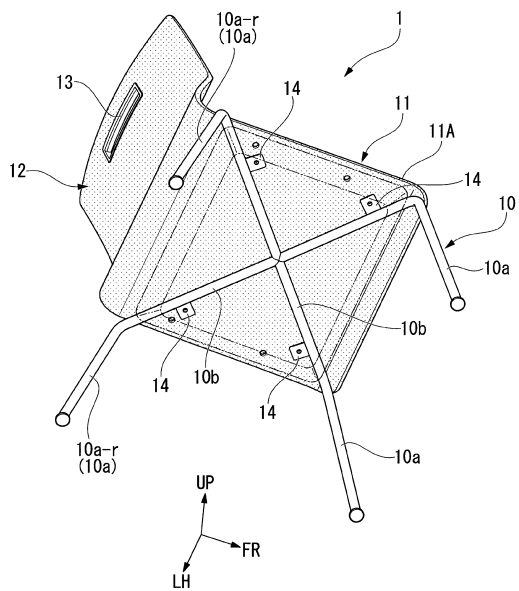
【図 1】



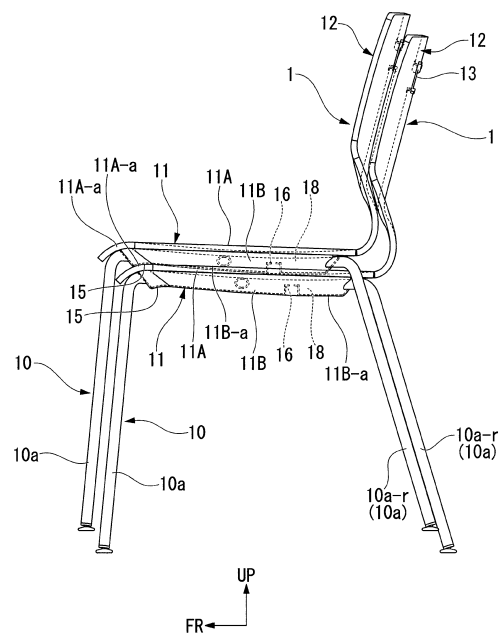
【図 2】



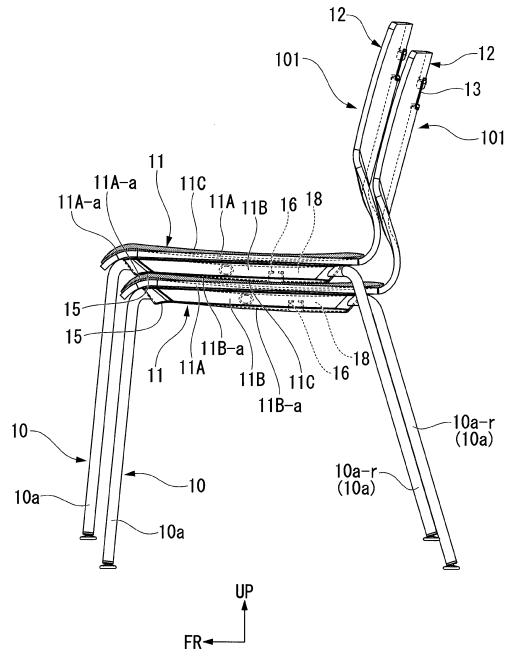
【図 3】



【図 4】



【図5】



フロントページの続き

(56)参考文献 特開2013-172914(JP,A)
米国特許第05997094(US,A)
特開平09-140503(JP,A)
実開昭56-009252(JP,U)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)
A47C 3/04